

故 坂井道彦君との昔を想う

今年 4 月の畏友坂井道彦君（応用動物昆虫学会名誉会員）の訃報に接し、悲しみに耐えない。奥様のご落胆はいかばかりと察せられる。

旧制の葦山中学で出会い、互いの家が三島市の大社の東側で、歩いて 5 分ほどの近所だった。父君は東大の教授をされていて、戦争直後の東京と三島の間を行き来しておられた。戦争末期に焼け野が原となった東京から三島に避難しておられた結果と拝察される。坂井君から平山修次郎著作の昆虫図鑑を見せてもらって、多くの昆虫には名前がついていることを教えられ、たちまち生物部の中で離れられない昆虫仲間になった。

当時三島におられた朝比奈正二郎先生（後に国立予防衛生研究所の衛生昆虫部長）に、昆虫の同定から師事が始まったのもそのころからである。坂井君が発見した北伊豆のクチキコオロギの生活史を私が研究発表し、雑誌「新昆虫」で表彰されたこともある。本来彼が研究すべきだったが、高校 3 年生になるときに東京の高校へ転校したため、私が引き受けたかたちである。この転校は父君のご都合と、当時すでに東大を目指していた坂井君の勉学環境への配慮があったものであろう。実際、高校 3 年生直前からは受験勉強に専念せざるを得ないとご自身が話していた。ちなみに葦山高校も相当な進学学校である。坂井君は勉強の実力はすでに定評があり、高校 2 年生時代に 3 年生と合同の校内実力模擬試験の成績が 1 位か 2 位だった。われわれ 2 年生の生物部員で 10 位以内に入ったものが 3 名ほどいたと記憶している。



1946 年 6 月（中学 2 年生）

後列右が坂井君、左が小早川先生
前列左から石渡、加藤、平野の 3 君



1951 年度「新昆虫誌」論文表彰

坂井君の転校以後、仲間は一斉に受験勉強（クラス）に入ったが、私は父が丁度失

業した関係で進学をあきらめ、アルバイトや食料確保にはげみ、昆虫採集とコオロギの研究に打ちこむことになった。受験勉強不要のクラスには甲子園で全国優勝したピッチャーの東泉君などの実力者がそろっていたので、雰囲気はとてもよかった。しかし、年末になって、末弟がすでに世話になっている九州宮崎県の姉の嫁ぎ先に、自分も居候することにきまり、そこで急遽受験できることになった。

その後、坂井君と私はよく似たコースで昆虫関係、農薬開発関係をたどり。就職では朝比奈先生のお世話を分け合った仲となった。すなわち、大学院時代に先生から打診された武田薬品（株）への就職を坂井君にゆずり、大学院修了後の三共（株）への就職の際には先生に保証人になって頂いた（もう一人は、家内の兄の掛見喜一郎）。そうして坂井君は奥様ともども京都の住人となり、お付き合いを頂いたのも奇しきご縁である。しかも、会社定年後も開発コンサルタントとして20年各社を支援し、毎月上京し、学会支援をしていることまで同様だった。おかげさまで、最近も昆虫科学連合の会議などで坂井君に会っていた。

まだまだ次の機会を楽しみにしていたのに残念と言うほかない。いつの間にか、私たちは80歳になっていた。私も前立腺炎から、たびたび膀胱炎を併発し、高熱入院をしたが、新薬を連用して、ここ2年ほどはなんとか保たれている。

近年3回ほど三島駅で途中下車し、昔坂井君と共に通った路を歩いて、葦山のクチキコオロギの棲む守山にも登り、この70年間を振り返っている。そんな時、坂井君と一緒に歩いたあの日々が、はっきり浮かんでくる。

道彦君のご冥福を心からお祈りする次第である。

2013年7月
環境生物研究会
辻 英明